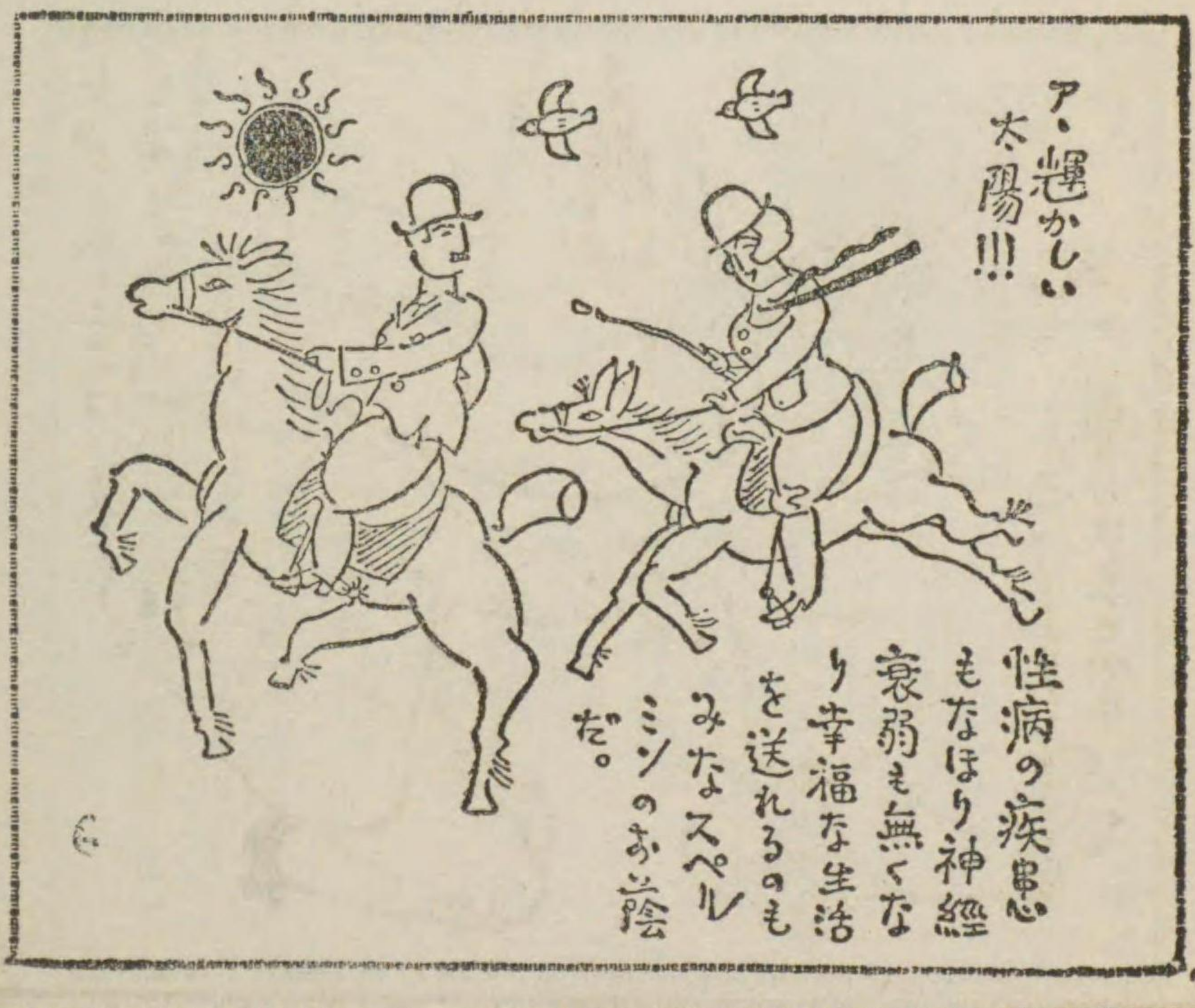


「これはどこの坊つちやんだ」
 「マア、うちのタロウぢやありませんか」
 「あんまり可愛ゆい子供服を着たので見違ふたどこで買ったんだ」
 これは松屋の
 コドモ服です」



ア、輝かしい太陽!!!
 性病の疾患もなほり神経衰弱も無くなり幸福な生活を送れるのみなすべし
 ミソのお陰だ。



このモスリンを
 着せて置けば
 虫も喰はなけ
 りや人柄もよく
 なり人間の虫もつかない

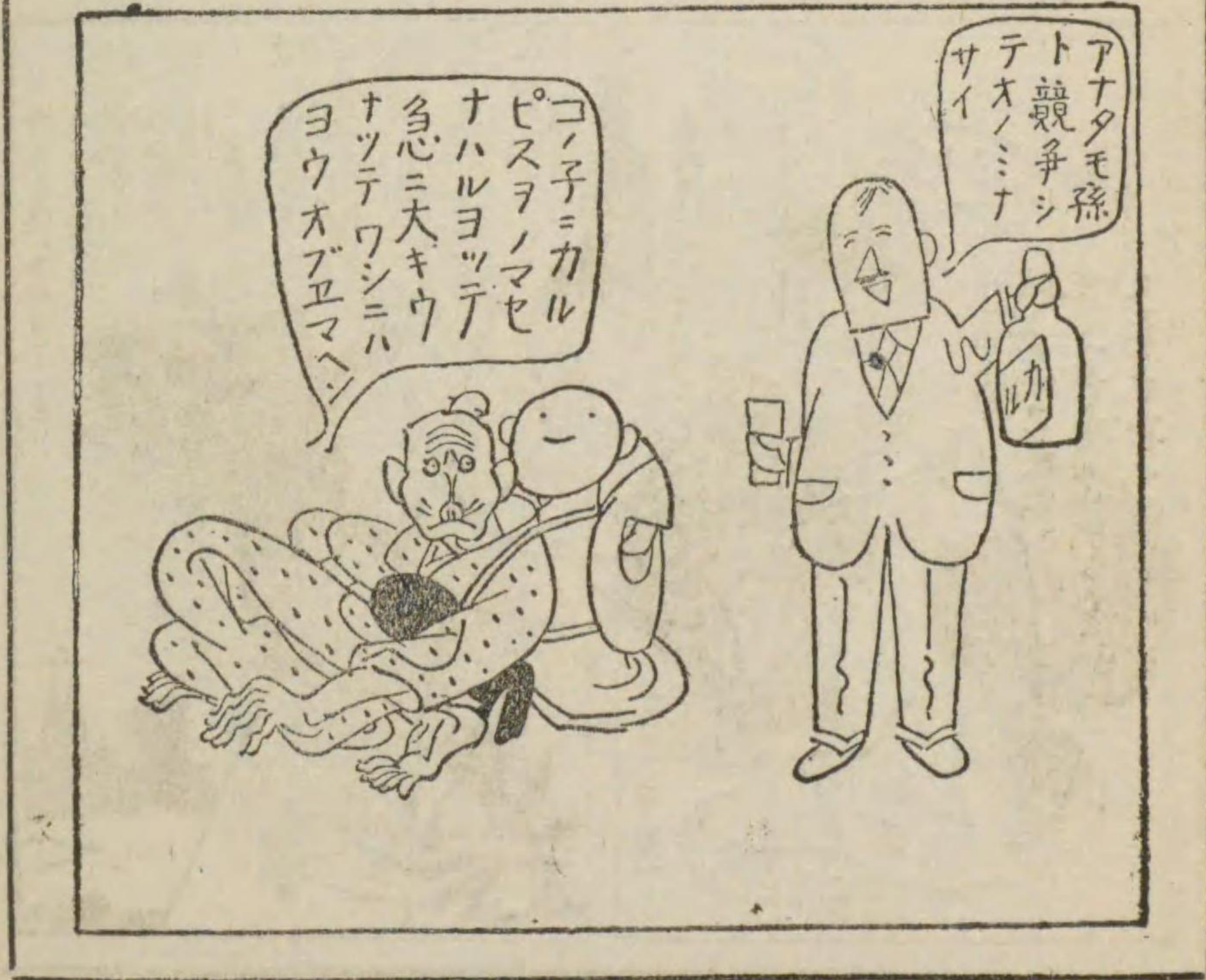
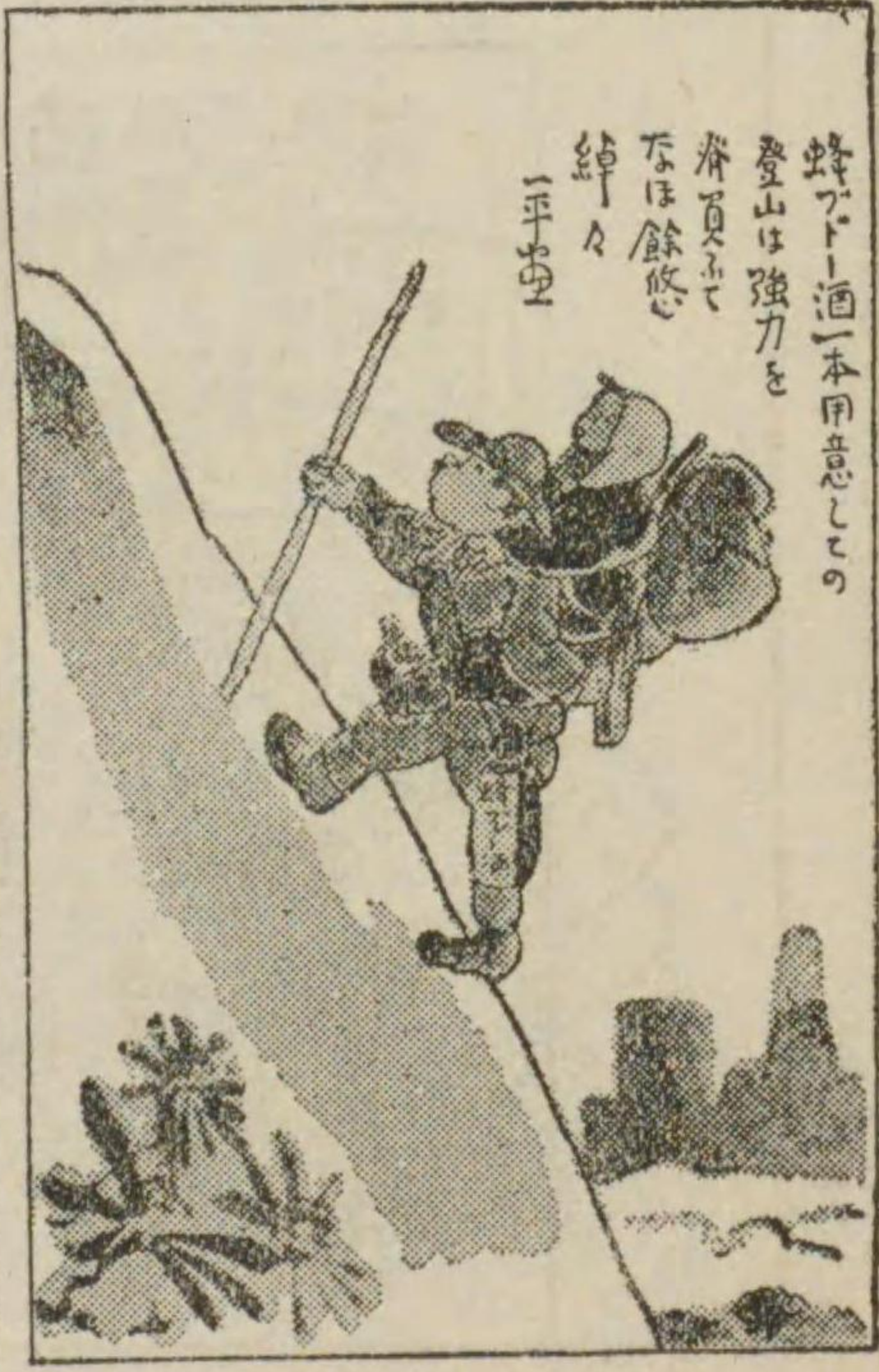
防虫加工
 ブドウ印
 モスリン

大織物防虫剤
 ライオン
 刺殺



社長の久し振りだ(げい)飲まじら
 社員のアサヒビールカリボンシトロン
 なら頂戴いたします
 社長、オ、君は
 鼻に衛生と
 趣味と経
 済を解する
 人間だ

不束な
 娘だがこれを
 世へて僕のヤトをやつ
 て呉れ給へ



家庭經濟展覽會

入場券

出品

內務大藏文部農林商工
遞信各省糧友會被服協會



東京朝日新聞主催

會場

東京朝日新聞社

自會 日六十月十
至期 日九廿月十

東京漫田會 關西展臨見會 第一面




漫田講演會

一月廿九日午後一時

高島屋吳服店

原松九島都京

廣告漫畫

一本日貨品
油醬サマヤ 



嫁入に今醬油
 を持つて来
 るとはきつ
 料理の
 上手
 本

嫁さん
 間違ひな...うちの
 むすこもしあはせ
 さね

為今醬油
 の代りをしてあげ

宮内省御用通 ヤマサ醬油株式会社
 三九七



鈴の音

一平堂

一平全集

三九六

59
35

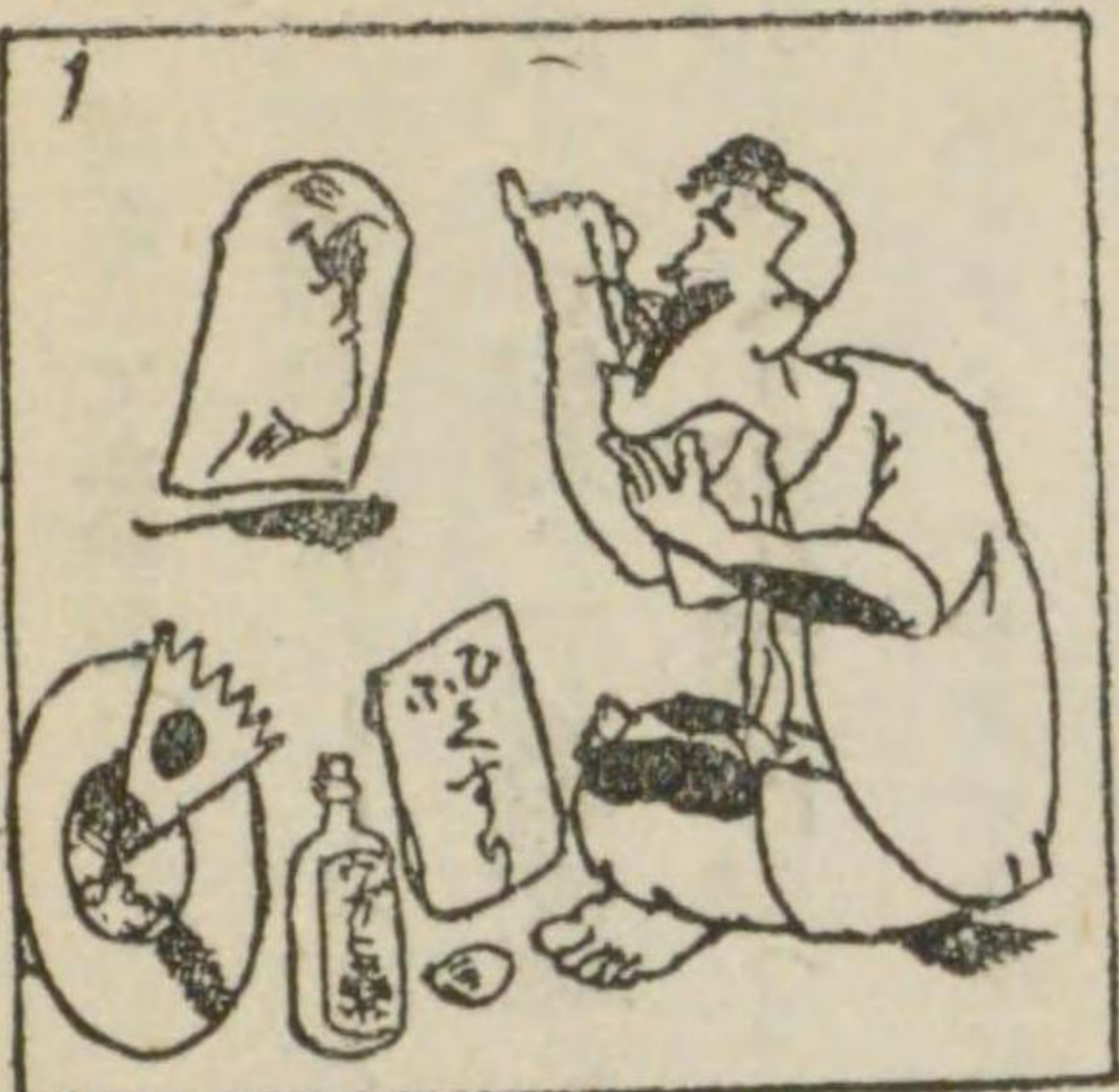
雜
篇
集

甲子園大會

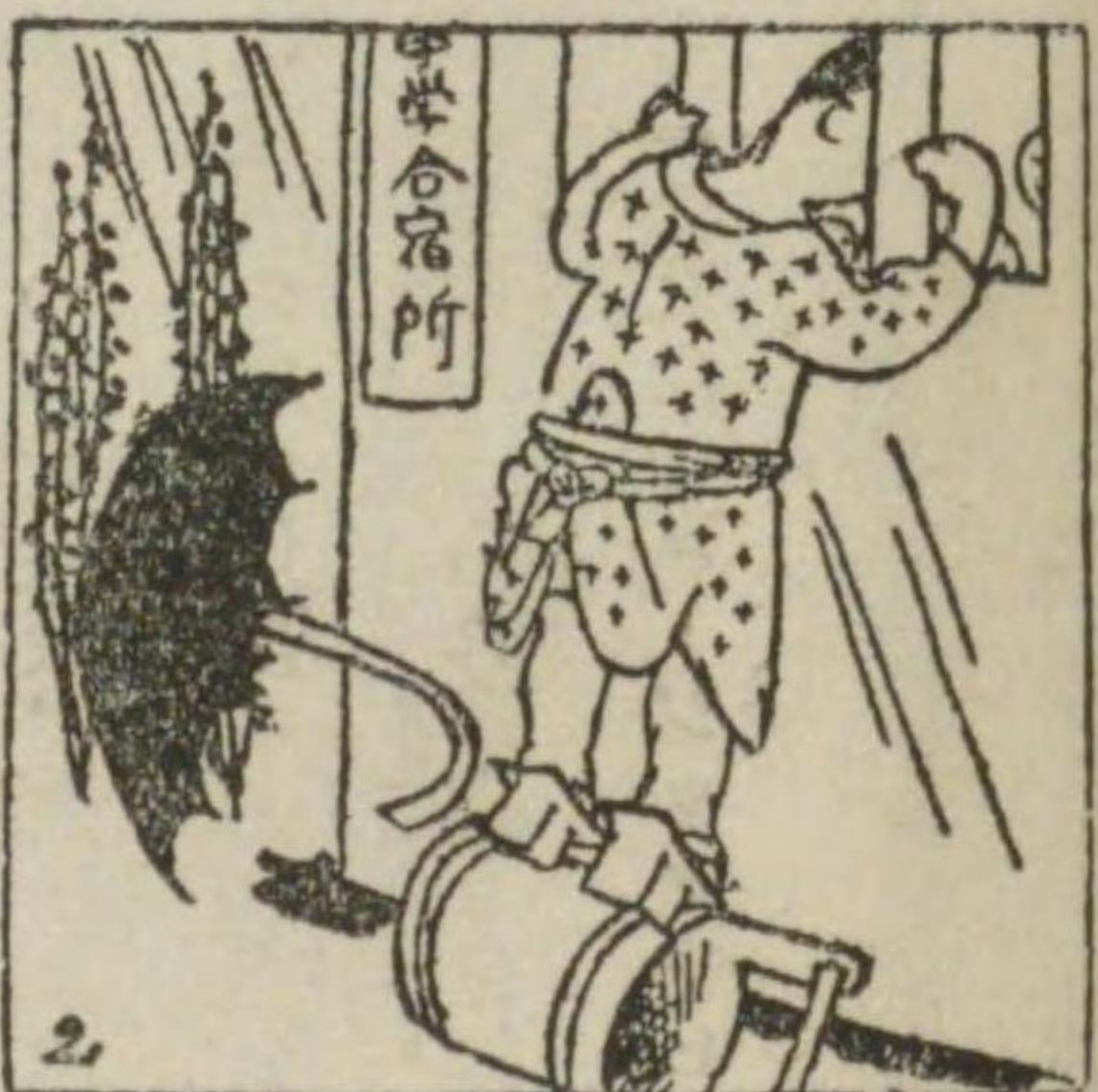
スケッチ

一 雨のファン

今日は雨で試合が休みである。ファン漸く暇を得て此折にとばかり日やけで薄皮の剥けた鼻尖に油薬をつけ、聲が潤れた咽喉にうがひ薬を手當す。



大會スケッチ



陽性のファンは毎日の惰性で家にジツとしてゐられず。合宿所廻りや窓から選手達の元氣の相違を見て胸に豫想を楽しむ。

三

勤め人出身のファンはこの折に初日以来缺勤して溜つて居た叱言を、勤め先の主人から一遍に叱られてしまふ。主人譴責控帳を取出して曰く『野球は他の道楽と違つて性の良え

もんやよつて行くなどはいひまへんがうちの用もチツト片付けて貰はん事にや—エ、十二日には手紙出すの頼んどいたに一向出して呉れはりまへんな。十三日にはステーションへ客を迎ひに行つて呉れへんし—」など、叱られる。大阪言葉でいへば、ヒカられるのである。因に曰く大阪言葉は理詰めに出来てゐる。禿頭に叱られるのだから成ほど光られるのである。



四〇一

補缺までが勇奮

決勝戦當日だけフリーバッティングを許す。で松本、平安共補缺の二年生まで入り亂れ球場に立つ。球場に、プロテクターやグロブにわずかに手足が生へて働いてる。今日の試合の一大事を想はせる。



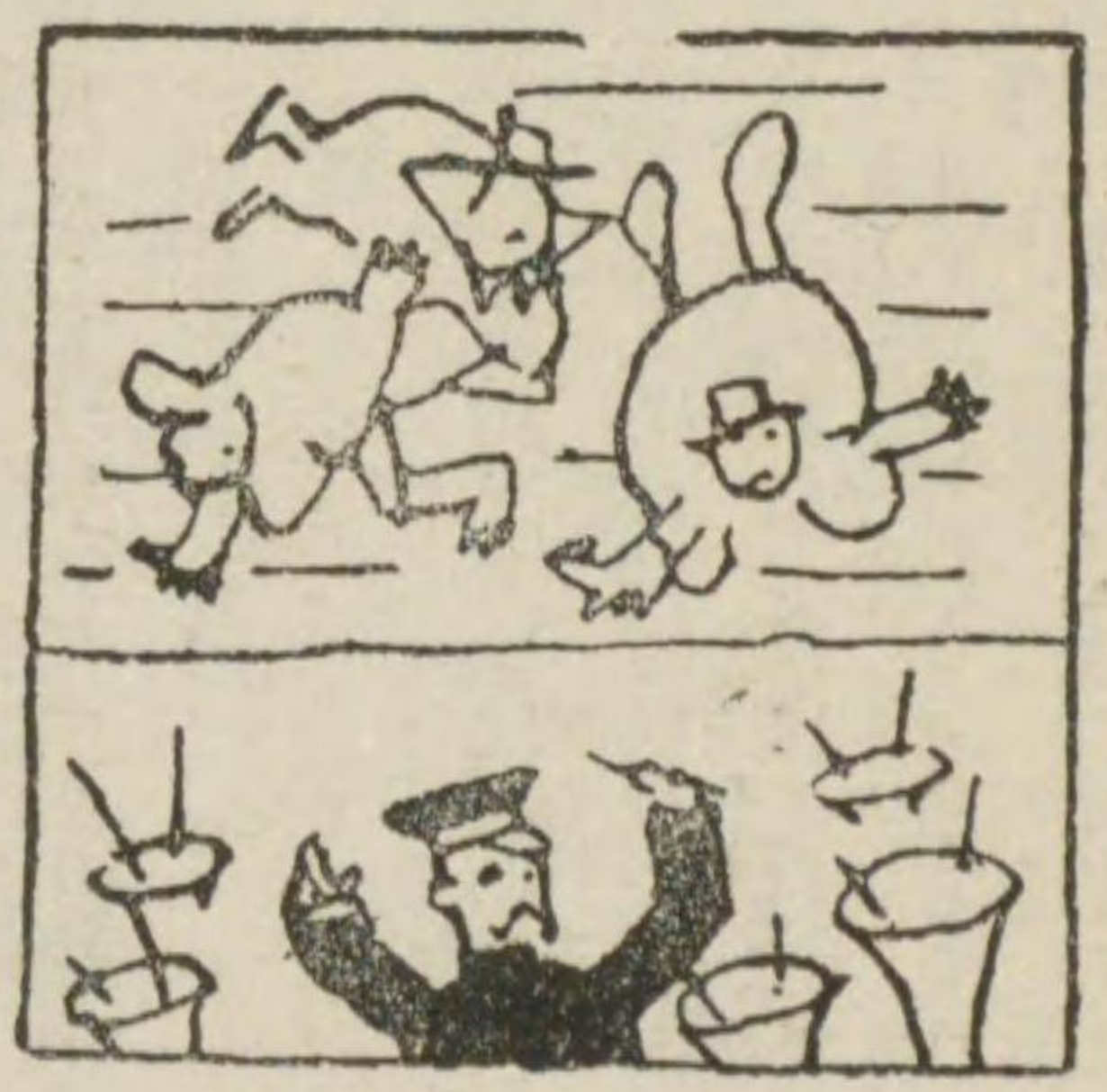
槍と網

和中小川投手の怪腕に任し切つた戦鬪振りに對し高松が全員協力の守備振りには槍と網の関係であつた。



樂隊

樂隊が入つたのでいよく決勝気分燃え立つ。大太鼓、大ラッパの響きに近所の席の見物ゴソソ〜と腹を減らし跳ね上られ宙返りを打ちながら『勇壯なミュージックやヒヤヒヤ』



商標の手傳ひ

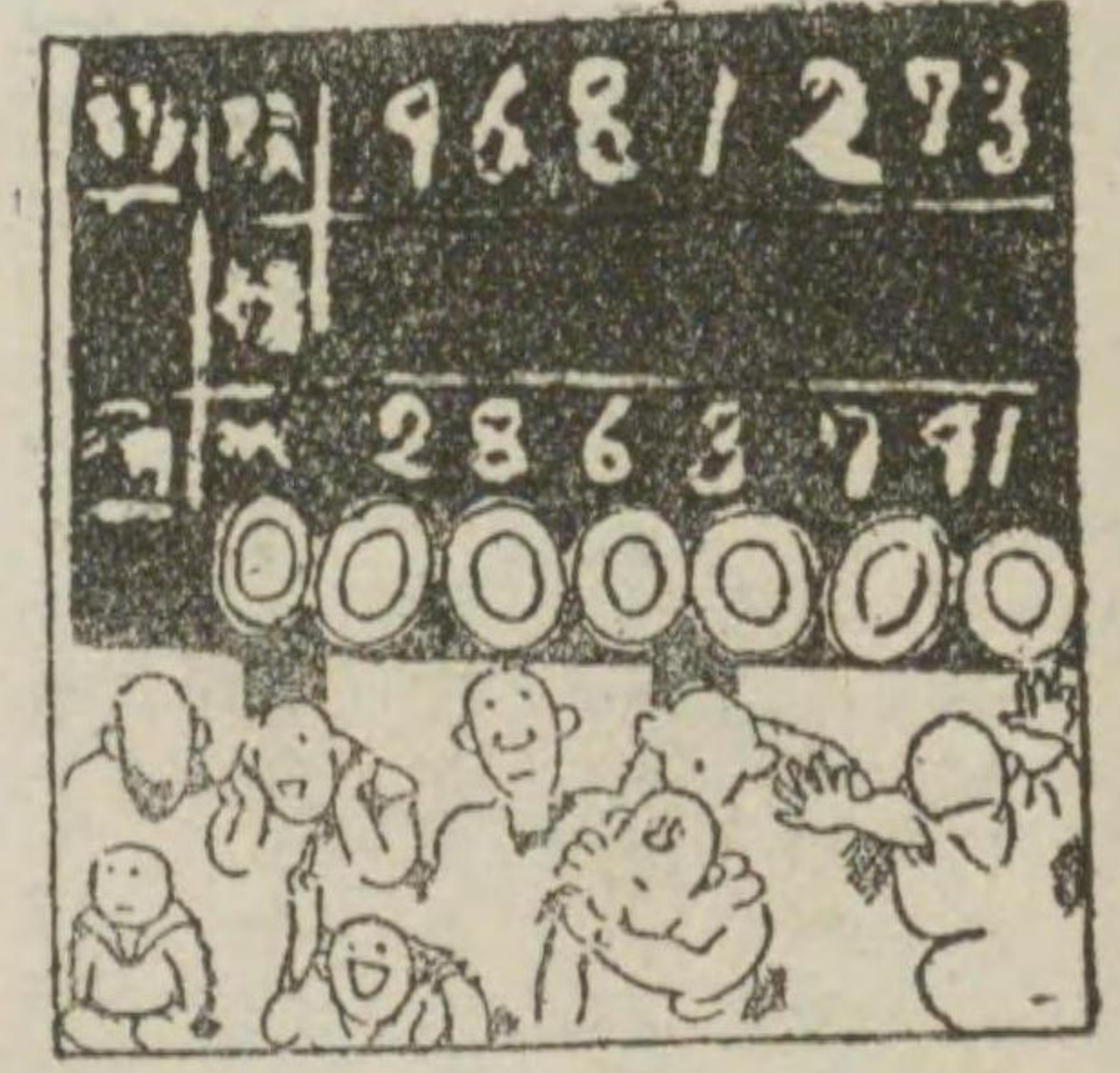
場内へ音楽を送る超ヴィクトロラの建物入口に商標の犬の造りものが『ストライクワン、ボールワン』と數へながら見物してゐる。それと並んで會社の係りの人が場内視察かたゞ、商標の犬の形になつて宣傳の手傳ひをやつてゐる。商賣熱心なものだ。



大會スケッチ

帽子掛け

打者順を書く黒板の下の方に釘があると見え、その近所の見物人みな帽子を並べてかけたり。粗忽もの問うて曰く『こゝはどちら様のお支關口で？』



晴れてまた叱られる

けふはまた日本晴れの天気だ。西風いよく大會旗に緑の影あり、プレーヤーの白衣にも緑の影がある。とんびとんぼまで空中より見物に来る。昨日の雨の鬱憤去りやらぬ見物空を見上げて『何んたる天気や』と空は晴れてまた叱られるのである。



四〇三

本壘打

右翼外野の見物席の腰板に某運動器具店の廣告あり、文句に「各地代表チーム並一般ファン諸子に敬意を表す」と書いてある、甲陽軍、鷲見君の本壘打の球はそこまで轉がつて行つて敬意に酬いた。



天の與へし好機

午前一寸驟雨があつた。見物席に黒い洋傘に混つて紅色やトキ色の洋傘がサツト開く。チャンスとばかりモボ気味のある連中「一寸入れて貰ひまつせ」とこの紅色やトキ色の洋傘の中へ滑り込む。黒い洋傘の中へは滅多に盗難しない。



入場券賣り

満員なので木戸の近所でマゴマゴしてゐると重役級と見まがふ紳士がモシ／＼と呼止め手提金庫の蓋を開けて「入りませんか」といふ。ポナスでもくれるのかと思ふとこれが入場券賣りなのである。成程よく見れば重役の服装にしてはゴム靴と腰のタオルが不釣合。重役未遂ぐらゐのところだ。他會場附近入場券賣り多し。故に曰く「人を見たら入場券と思へ」



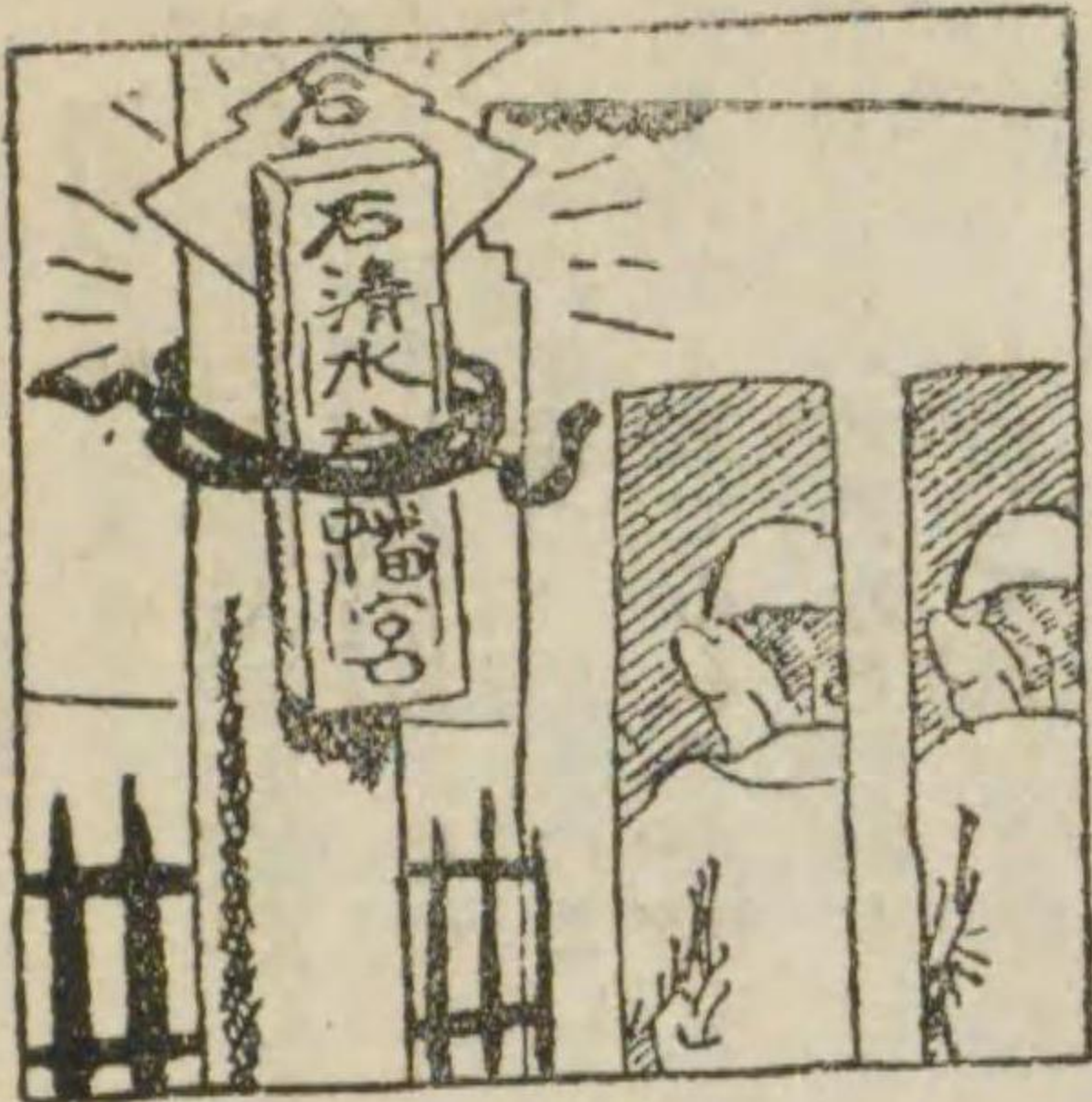
人間て出来たすり鉢

観覽席を何千人分とか増設したといふが見物人はそれに山盛だ。人間て出来たすり鉢があると思ひ給へ。丁度その底のところ野球の球音がしてゐる。



石清水八幡のお札

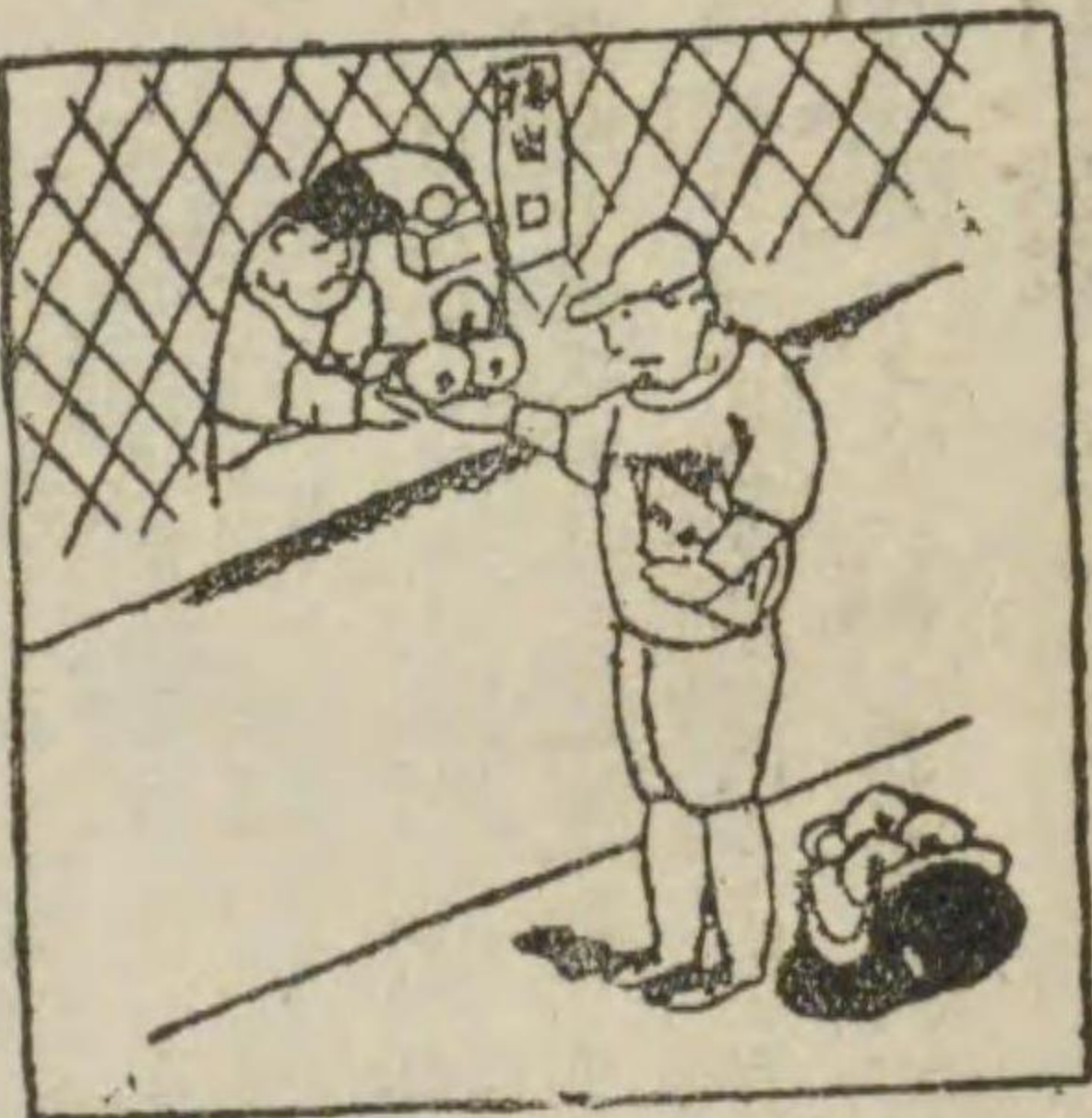
平安軍控席の後の柱に石清水八幡のお札が電線で縛りつけられてゐる。お札が針金強盗に遭つたのでは無い平安びいきのファンが秘かに戦勝を祈る心盡しである。そのお蔭か平安軍善勝した。かのファン悦びに夢中になつてお札を置去りにして取りに来ない。それで八幡宮のお札は腹を減らし乍ら次の試合を見物してゐる



大會スケッチ

銀行と預金者

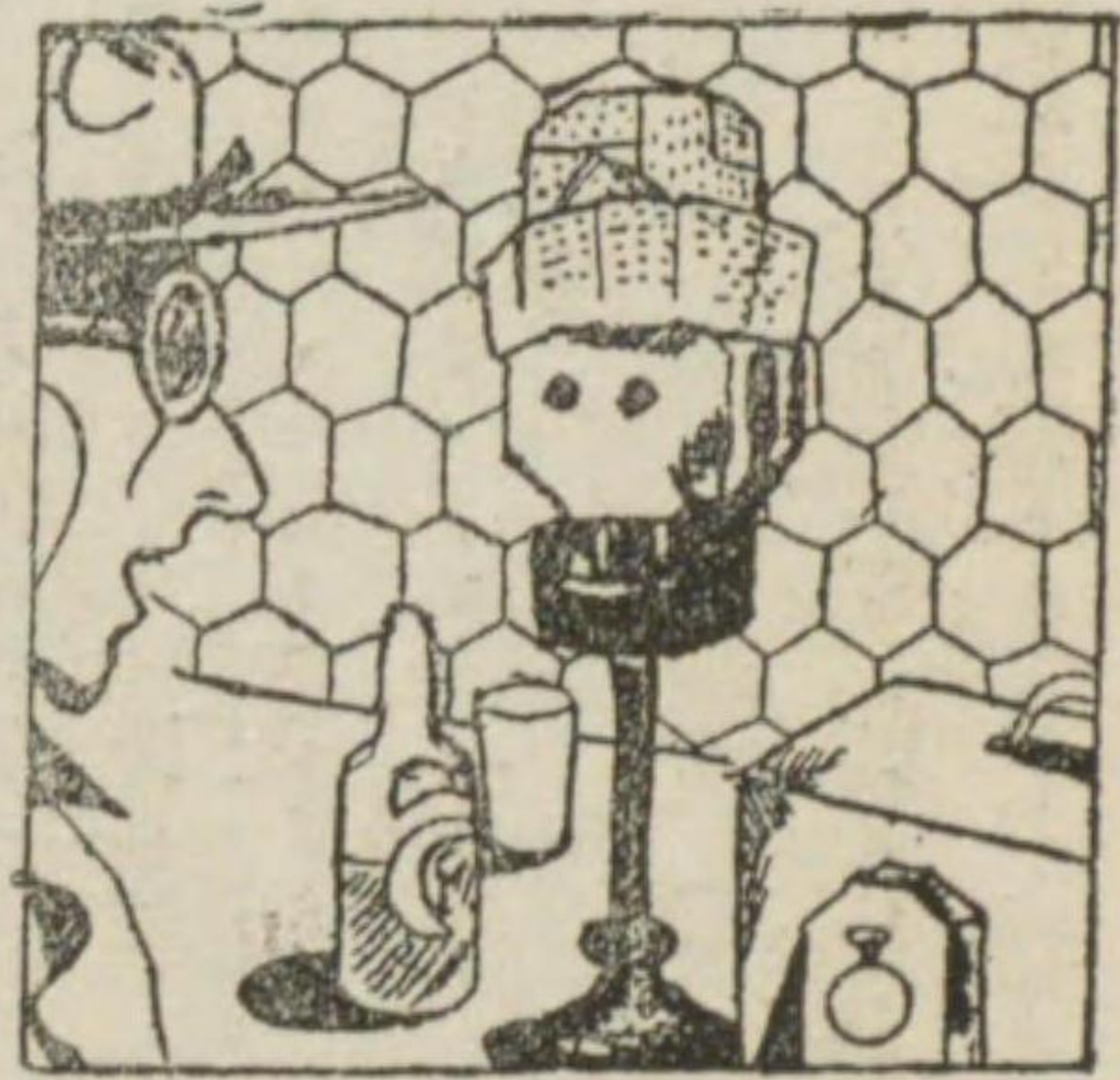
北海中學銀行は第一回に一舉五點といふ資本を積み納まつてる、これに對し豊中は回ごとに一點或は三點となしくづしに預金を引出して行くで九回の結果は六對六、銀行の金庫と預金者の懐と相殺されるといふ仕末。しかし補回に入つて北海銀行は遂に一點の資金を充實して勝となる



開門を待つ人々
 場内取締上夜間入場を禁止したので熱心な連中場外草原に夜営して、曉の開門を待つ。用意のよいのは蚊帳を持って来てゐる。蚊帳の中で明日の試合の豫想など激論し、やがて魔法壺を取出して茶など飲み始めたが一人は氣の付いたやうにいはいく「女房を連れて来んと散らばつてかなはん」



帽子を冠つた
 マイクロフホン



JOBKの場内出張所で本年使用のマイクは頗る神経鋭敏のマイクなので烈日の下にもし眩暈でも起してはいけないとアナウンサー君心配して新聞で帽子を拵へ冠せてやつてるその側にサイダーが置いてあるがこれも多分マイクに飲ませるのだらう。

ゆがむ、波打つ
 一點も入れなかつた平安軍に九回裏で一點入つた、その上フルベイスである。故に今までの負を取戻してその上いくら勝越せるか知れないと来たので、満場の歡呼、スタンドを見よ。ゆがむ！ 波打つ！ 然し遂に機を失した。



ネバル—スキ

甲陽對大連は好箇の勝負、十回まで同點甲陽軍餅やとなつてねばれば大連はスキをねらつて突破せんとあせる。ネバリとスキの争ひや今たけなは—



大會スケッチ



野球武士道

京城軍の田原君ホームへ猛進しベイスへつく刹那頭を打ちベイスに突臥す、係の人々、早速醫務室へ運び入れる途中も田原君接戦の現状を氣にし「生還か？〜」と叫び問ふ。見るもの感ぜざるなし、幸ひに同君は生還でもあつたし怪我も直に癒つたして又持場に姿を現はす、満場祝意を表して拍手—

(電話)和中五二〇三

佐賀對和中戦の四回までのスコア
 ボールドの得點結果を見ると和中は五千フタ百〇三番の電話を架けたやうである。これに對し佐賀はまだ架設中である。試合回数進んで和中はついで一〇一番の電話を架けたが佐賀は遂に架設中に終つたは残念。但し來年の大會には眞先に架ける事であらう。



四〇七

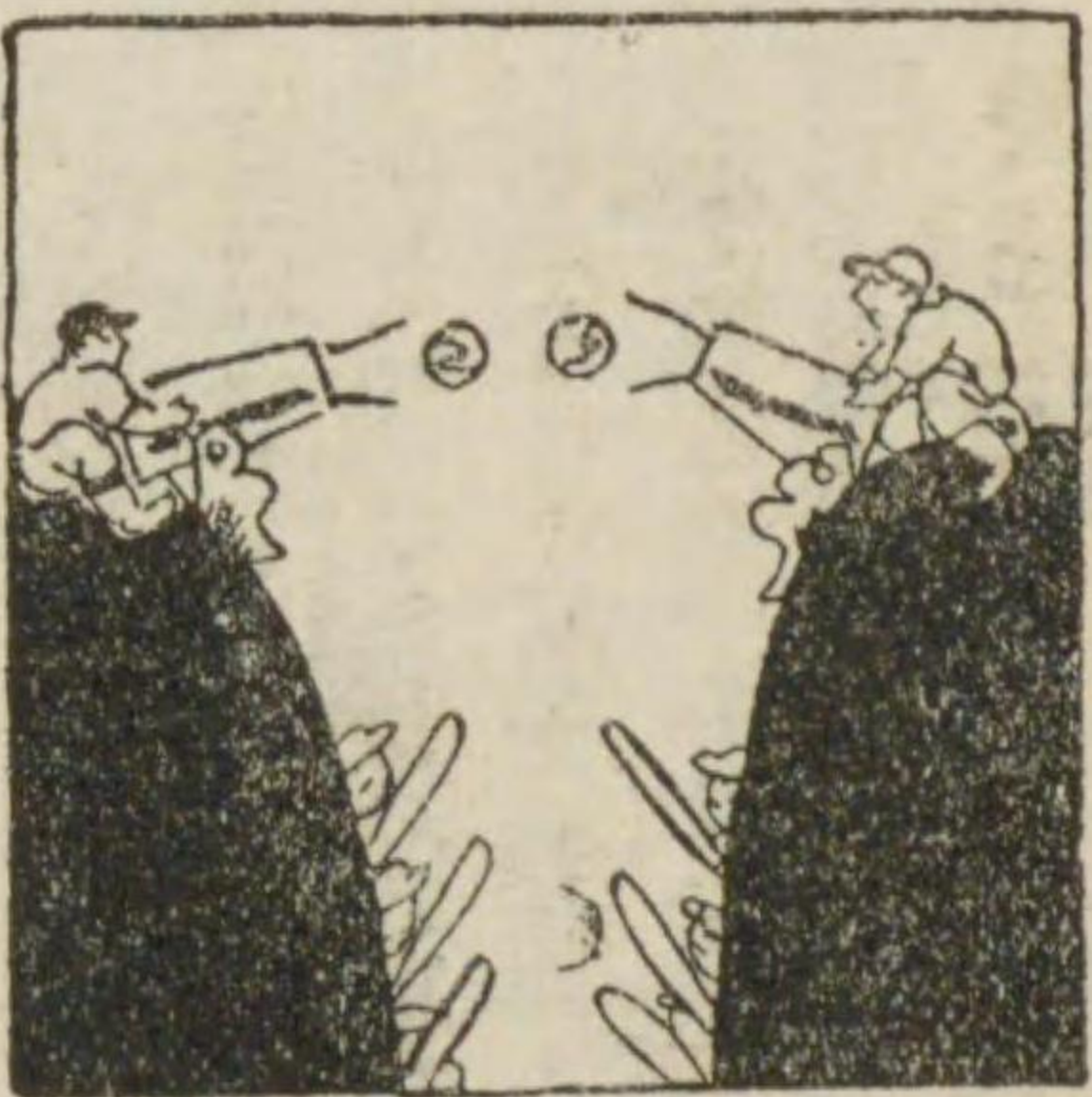
思はぬ曲捕り

第四回において平安打者の打つた球を松本二壘手受取つた拍子に転倒する。その拍子に手の中に搦んだ球空中へ跳ね出す。二壘手の後に續いて行つて煽りを喰ひ共に轉んだ中堅手がこの時起き上りさまヒョイトこれを受取り打者はアウト。思はぬ曲捕りであつた。



山砲戦

神奈川と福岡の戦ひでは雙方投手が巨弾を放ち合ひ打者をして壘に近づかしめず頗る美事な山砲戦である。よつて雙方の歩騎工兵が山の蔭で、ツトを構へ一向投弾の放るのを待つてゐる。



コーチャーの首

静岡が勝つた。静岡出身者悦んでドヤ／＼と押かけて来てコーチャーの首に飛びつく。後から来たものは前がつかへてゐるのでコーチャーの首のあくまで待つてゐる。

(大正十五年)



卯歳春帽子耳有

卯三郎『あした旅行するんですか、僕寂しいな』
とくさ子『ぢやこの兎あたしの代りに預けていくわ』
卯三郎『兎ですか、兎はあなたの代りにはなりませんや、兎はピアノ



卯歳春帽子耳有

を弾いても呉れないし』

とくさ子『でもこれあたしの大事の兎なの、でこれを今預けて行くから歸つて来てこれを若し大事にして居て下さつた證據が見えたら、あなたはあたしに影日向ない忠實な方なのだから、その時お望みの結婚の約束するわ』
卯三郎『本當に約束して呉れますか。ぢや兎を預らう。かなつちやあ命に代へても大事にする』

卯三郎『兎と二人でとくさ子さんの出發を見送つて来たとき



さ子さん兎の方により多く別れを惜んで僕の方にはより少く別れを惜んだ。癡な兎だ。けれども此兎が又結婚の約束の原因にもなるんだから結びの神でもあるのだ。大事にしやう。ところで兎を大事にするにはどうしたらいいんだらう。洋菓子を買つて食はしたら悦ぶかしらん。』

(兎ビョンと跳ねて逃げる)

卯三郎「オヤッ！」

三

女房「おとつあんく」
おやぢ「何だ、急に小さな聲出して
問屋が豆代でも取りに来たのか」
女房「兎だよ。兎がオカラを食べて
るよ」

おやぢ「オカラは賣ものだ。誰が喰



つたつて錢置いてけばい」

女房「馬鹿だね。おとつあん
は。兎はお錢なんか持つてや
しないよ。だからおとつあ
んお前さんの事を世間ではに
がりの利かない豆腐屋だとい
つてるのだよ」

おやぢ「ハア、兎は錢なしの喰
逃げか、喰逃げなら交番へ屈

けやう」

女房「いよく馬鹿だね。交番
へ屈けるのは人間の喰逃げだ
よ。兎の喰逃げは打ちのめし
てやるんだよ」

おやぢ「あゝさうか。兎の喰逃
げは打ちのめすか。ぢや鳥の
喰逃げは？」

女房「ぢれつたいね」



四

卯三郎「誰だ」
豆腐屋「昨日、お話しした豆腐屋で
す。あなたのとこの兎と知らねえ
ものですからこの間打ちのめして
喰つてしまったので、尤もあいつ
オカラの喰逃げをしようとしたん
で。残つたのは、へい、これがそ
の耳と尻尾でござへやす」

卯三郎「しまった」

五

とくさ子「漸く歸つて来てよ。迎へ
に来て下さつて有難う。時にウサ
ちゃんは」

卯三郎「僕の懐に居ますよ」
とくさ子「早く逢はして頂戴」

卯三郎「それがその、此頃はその、
兎にも風邪が流行りますから懐

から出すのはよしましょう。

大丈夫居ます。觸つてご覧な
さいこれが耳でしょう、それ
これが尻尾」

とくさ子「まア可愛い」

六

卯三郎「約束しちまつたらあな
たはもう僕の妻ですね。」

とくさ子「さうですとも」

卯三郎「妻は夫に多少の祕密が
あつても打明けて詫びたらゆ
るして呉れますか」

とくさ子「さうね。何だか怖い
のね。けれども貞操に關係し
ない事件なら許してあげる
わ」

卯三郎「なに單に動物の問題で
す」



(懐より兎になぞらへた帽子を取
出し冠つて)あなたから預つた山兎
のありやうはこの通りです」

卯三郎春帽子耳有



水郷戯想

一平全集

都の畫家『都から舟でこの邊へ遊びに来たものですが、一寸訊ねますこの邊はどこが一番いゝ景色です。』
 娘『あたくしも東京の學校から夏休みに歸つて來てるものです。そうね。暇ですから、ではその船へ乗つて御案内してあげましょう。』

二

畫家『この水郷へ來てあなたのような藝術に深い理解を持つてる方を發見しようとは思ひませんでした。あなたのやうな方がいつまでも傍に居て下されば僕の藝術がどんなにも伸びて行くのだが。』

娘『ほゝゝ。一しよに居て上げてもいいゝわ。』

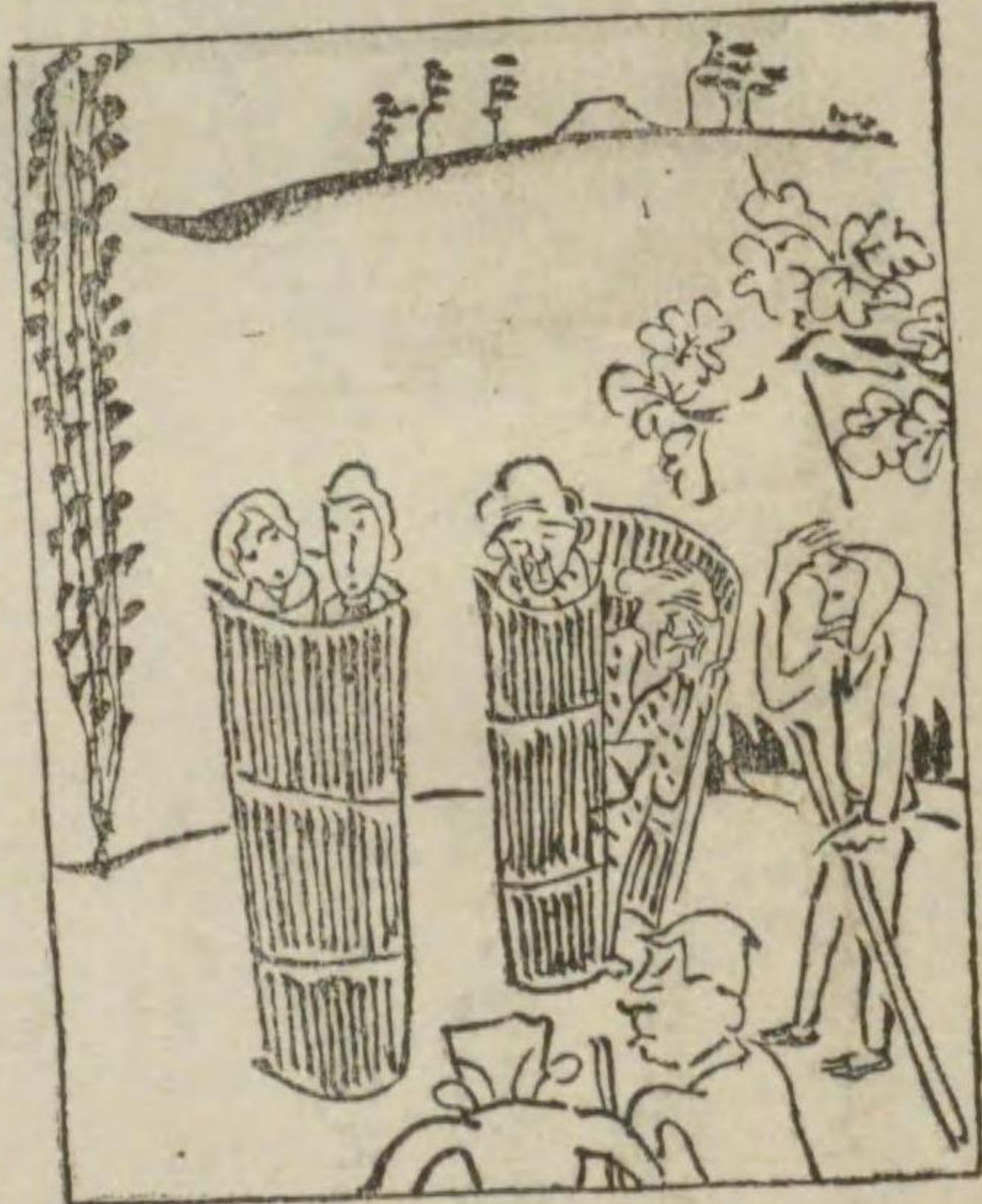
(眞菰の中より村の若者覗く)

若者『とんでもねえ相談をぶつ始めたぞ。』



四二二

三
 若者『この村の娘が他國のものと乳操り合つたら、最後、籠巻きにして川へぶつ叩き込むのが當村青年團の申合せだ。それで無くちや村の若者の面が立たねえ。見付けた以上、さあ來い。』



で曝しものにするのだとよ』
 同乙『都の若者は何といゝ男でねえか。そして女つ子の爲めなら籠巻きにでも何でもなるど、あれ見ろ嬉しさを顔してゐるだ。』
 同丙『こんな實のある男を殺すなんて村の若エ衆等ア。情知

四
 娘の母親『一人娘を籠巻きにされて河へ沈めにかけてはわし

共は生きてる甲斐がねえだ。どうしても娘を殺すといふならわし共も籠巻きにされべえ。さあ、老父さまや、籠の子の中に入りなさら。』

五
 若者連『こいつは仕末に困る。』



村の娘甲『河へ沈める代りにこの二人を三日こゝ



四一三

水郷戯想

六

村の若者甲「やーい。大事件が起きたぞ。海老などをすくつてる時でねえぞ。若え衆の舟はちよつくらこゝへ集つてくんろ。」

乙「どうしたのだ。」

甲「村の女つ子等みなあの曝しものゝ男におつ惚れ始めたぞ。みな泣いてゐた。おめへの女つ子もよ。おめへの女つ子もよ。」



みなく「そりやなんねえ。早く曝しものをつゝ放すべえ。」

七

都の畫家「水郷で生命を賭けて、理想の戀人を得て、船に乗せて都へ歸る。この美しい事件を生んで呉れた村だと思へば村も村の人も、今別れるとなると何となく愛惜の情が湧いて來ます。」
娘「そこがあなたの可愛ゆいところよ。」



昭和五年十月十二日印刷
昭和五年十月十六日發行

「文藝美術漫畫」定價金壹圓五拾錢

著作者	岡本一平
發行者	上村勝彌 東京市本郷區駒込上富士前町百九番地
印刷者	杉山愛二 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所	株式會社 秀英舍 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
發行所	東京市本郷區駒込上富士前町百九番地 會社 先進社 電話小石川二四四番 振替東京六五三三八番

59
31

先進社發行圖書目錄

青野季吉著	太田正孝著 <small>經濟學博士</small>	太田正孝著 <small>經濟學博士</small>	高橋龜吉著	稻村隆一著	椎名龍德著	海老名彈生著	青木誠四郎著	松本亦太郎著 <small>文學博士</small>	小西重直著 <small>文學博士</small>
サラリーマン恐怖時代	新聞ざんげ	資本主義の修正 <small>アメリカの繁榮とドイツの復興</small>	日本農村經濟の研究	農村は何處へ行く	病める社會	基督教大觀	學業成績の研究	兩親のための一般心理學	母のための教育講話
十四版	九版	十五版	十六版	十六版	二十版	六版	六版	六版	七版
送料 定價 一・三〇 一・二	送料 定價 一・八〇 一・二	送料 定價 一・二〇 一・二	送料 定價 一・五〇 一・二	送料 定價 一・三〇 一・二	送料 定價 一・八〇 一・二	送料 定價 一・五〇 一・四	送料 定價 一・八〇 一・四	送料 定價 二・〇〇 一・二	送料 定價 一・五〇 一・二

59
31

先進社發行圖書目錄

大藏大臣 井上準之助著	安部磯雄著	圓地與四松著	壽木孝哉著	杉一郎著	林房雄著	林房雄著	明石鐵也著	貴司山治著	細田民樹著
金解禁—全日本に叫ぶ	國民の審判に訴ふ	空のツエツペリン	就職戦術	金儲實話	都會双曲線	鐵窓の花	失業者の歌	同業志愛	黃色い窓
百廿版	六十版	十六版	廿六版	卅版	十九版	八版	六版	六版	十二版
定價 一〇〇 送料 一〇	定價 六〇 送料 八	定價 一六〇 送料 二二	定價 一七〇 送料 一四	定價 一六〇 送料 一四	定價 一五〇 送料 二二	定價 一七〇 送料 二二	定價 一三〇 送料 二二	定價 一六〇 送料 二二	定價 一七〇 送料 二二

先進社發行圖書目錄

ハインリツヒ・ストレーベル著 齋藤茂譯	ウエ・サラビヤノフ著 荒川實藏譯	ポール・ラファルグ著 萩原厚生譯	エス・ユ・ウイツテ著 荒川實藏譯	池崎忠孝著	池崎忠孝著	室伏高信著	室伏高信著	室伏高信著	小野賢一郎著
獨乙革命と其後	史的唯物論入門	正義・善・靈・神の唯物史觀	さればロシヤは敗れたり	米國怖るゝに足らず	日本潜水艦	アメリカ其の經濟と文明	日本はどうなる	新英雄傳	奥村五子
五版	六版	六版	十二版	百版	廿五版	三十版	二十版	十五版	十四版
定價 二〇〇 送料 一四	定價 一三〇 送料 二二	定價 一七〇 送料 二二	定價 一三〇 送料 二二	定價 一五〇 送料 二二	定價 一〇〇 送料 一〇	定價 一六〇 送料 二二	定價 一六〇 送料 二二	定價 一五〇 送料 二二	定價 二〇〇 送料 一四

59
35

先進社發行圖書目錄

青木誠四郎著	倉田百三著	エルンスト・エンゲル著 佐藤雅雄譯	パーキン・ヘッド著 佐藤莊一郎譯	アンドレー・マロウ著 新居格譯	エミール・ルドウィグ著 早坂二郎譯	大佛次郎著	田中貢太郎著	ヴァルガ著 坂井哲三譯	川端康成著	猪俣津南雄著	武政太郎著
子供の生活の見方	絶對的生活	鋼鐵のあらし	二〇三〇年の世界	熱風	一九一四年七月	日蓮	旋風時代(2)	世界の農業と農民問題	淺草紅團	支那問題入門	日本の子供
最新刊	最新刊	最新刊	最新刊	最新刊	最新刊	最新刊	近刊	近刊	近刊	近刊	最新刊
送料 定價 二・〇〇	送料 定價 二・五〇	送料 定價 一・五〇	送料 定價 一・八〇	送料 定價 一・七〇	送料 定價 一・七〇						送料 定價 一・五〇

先進社發行圖書目錄

三宅やす子著	大佛次郎著	大佛次郎著	大佛次郎著	吉川英治著	吉川英治著	吉川英治著	佐々木味津三著	田中貢太郎著	フロイド・デル著 小野忍譯	今東光著
金(カネ)	角兵衛獅子	山嶽黨奇談 <small>(角兵衛獅子 子續編)</small>	幽靈船傳奇	貝殼一平(上卷)	貝殼一平(下卷)	風雲天滿草紙	旋風時代	アプトン・シンクレア評傳	奧州流血錄	
十版	十六版	十六版	十版	廿六版	廿六版	新刊	廿四版	最新刊	最新刊	最新刊
送料 定價 一・八〇	送料 定價 一・五〇	送料 定價 一・五〇	送料 定價 一・三〇	送料 定價 一・八〇	送料 定價 一・七〇	送料 定價 一・六〇	送料 定價 二・〇〇	送料 定價 一・五〇	送料 定價 一・八〇	送料 定價 一・四〇

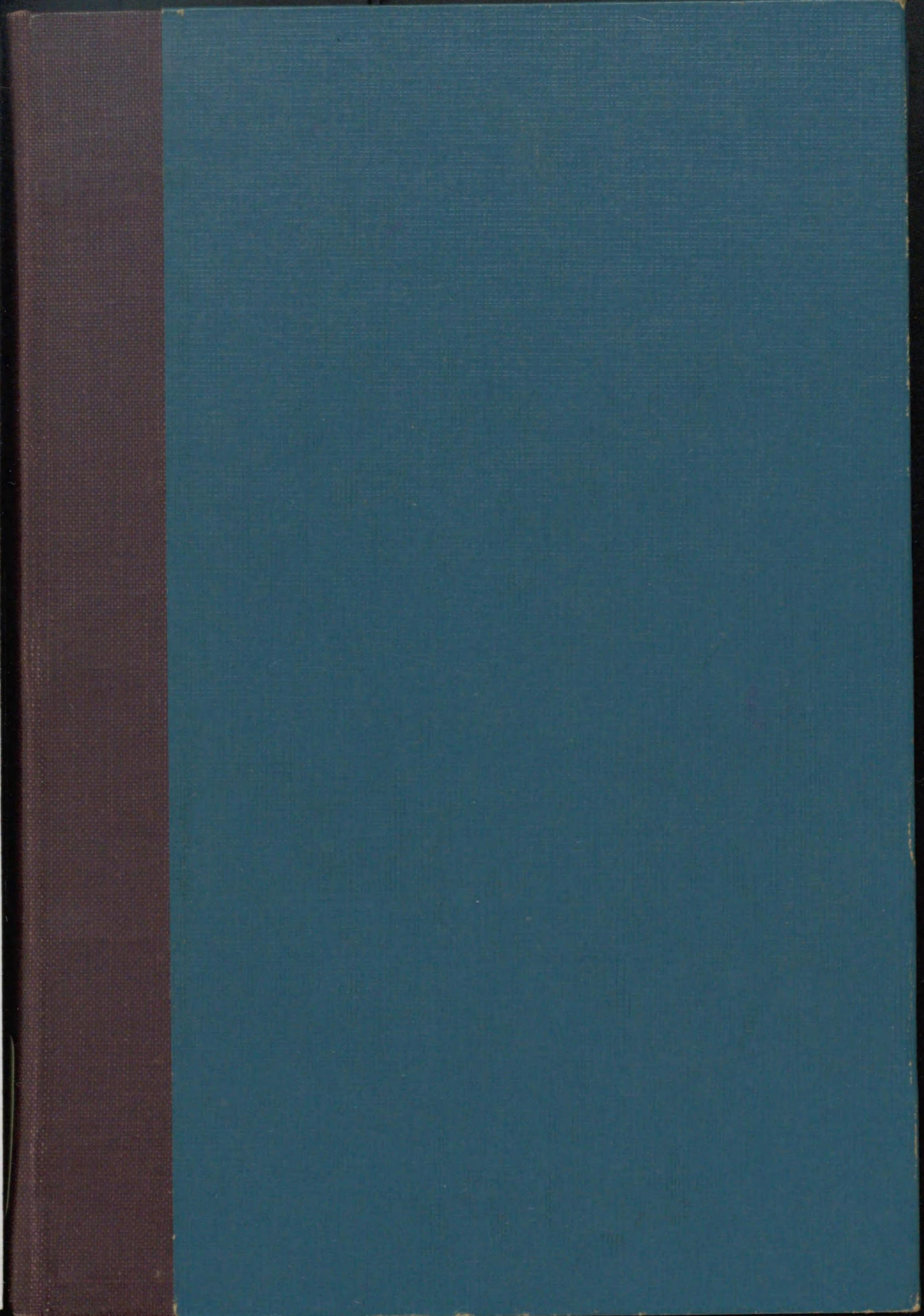
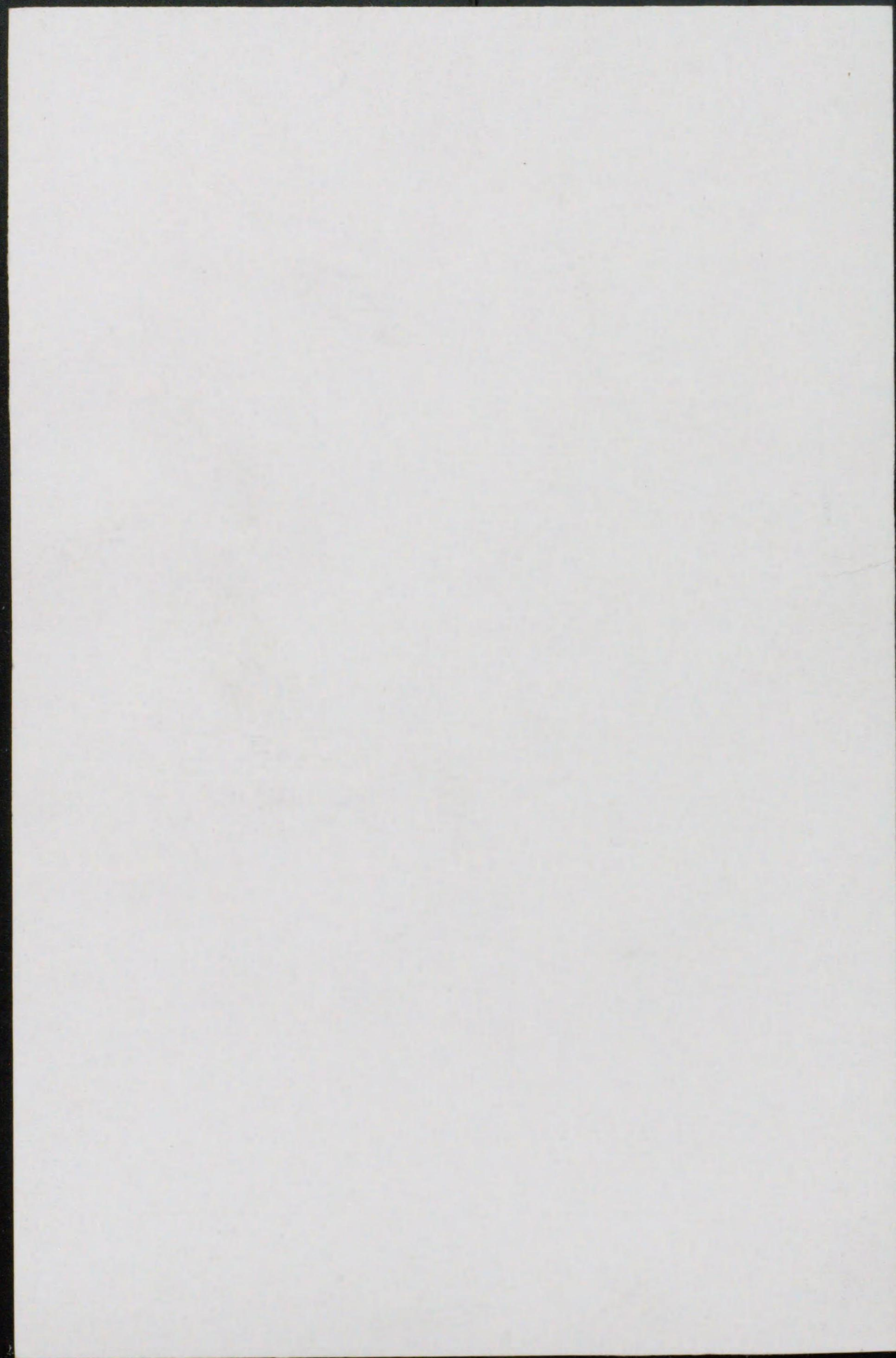
59
35

先 進 社 大 衆 文 庫

大佛次郎著	吉川英治著	三上於菟吉著	佐々木味津三著	江戸川亂歩著	甲賀三郎著	行友李風著	國枝史郎著	林和著	直木三十五著	土師清二著	三上於菟吉著
か	女	清	双	偵名探明智小五郎	神	獄	生	遊	荒	旅	清
げ	來	川	影	木	木	門	死	俠	木	鳥	川
ら	也	八	走	の	の	首	巴	男	又	國	八
ふ		郎	馬	空	空	土	巴	一	右	定	郎
嘶		(上卷)	燈	洞	洞	藏	藏	代	衛	忠	(下卷)
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
送料價	同	同	送料價	送料價	同	同	同	同	同	同	同
七八〇			七八〇	七八〇							

597

358

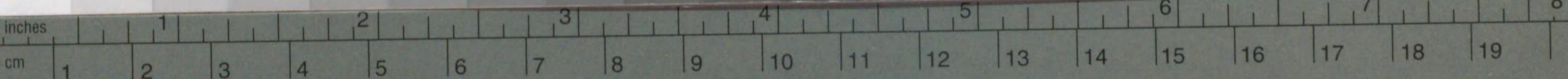


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

